

事業名	防災デイキャンプ				
ジャンル	家庭教育 ・ 青少年教育 ・ 成人教育 ・ 団体育成				
日程	令和3年7月11日（日）	講師	危機管理課職員	参加費	無料
対象者	根郷小、寺崎小、山王小4・5・6年生 根郷中、南部中 全学年	参加者数 (延べ)	13人	募集方法	学校に直接募集チラシ配布
趣旨	災害時に役立つスキルを学ぶ中で、子供たちの自主性・協調性を高め、心豊かでたくましく生き抜く力を育むとともに、子供たちの体験活動を通じ、災害時の共助について考える一助とする。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・起震車による地震体験 ・根郷小学校の防災倉庫見学 ・千葉県作成の防災啓発ビデオ鑑賞 				
工夫	例年は、1泊2日の宿泊事業として開催している。しかし新型コロナウイルス感染拡大に伴い、公民館の利用制限の中、できる活動を厳選し規模を縮小して行った。また、中学生をお手伝いではなく参加者として募集した。				
成果	まずは、新型コロナウイルスの感染の影響で規模を縮小しながら「密集を避けること」、「児童・生徒同士の接触を避ける」という条件で事業を実施できたことが一つの成果である。また、参加した児童・生徒が普段経験できない起震車による地震体験や身近な学校内にある防災倉庫の見学により災害時に役立つスキルを学ぶ中で、子供たちの防災意識の向上が見られた。				
課題	今回は規模を縮小して実施したが、事業の趣旨にもある「共助」について学ぶには、どうしても人と人との対話や接触が必要になってくる。今後Withコロナを見据え、どのように事業を展開していくかが課題となる。				

【公民館による事業評価】

項目	評価	視点
必要性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館が行う必要があるか。 ・市民や利用者のニーズに合っているか。 ・目的や役割が薄れていないか。 ・事業の休止・廃止した場合の影響は大きいのか。
優先性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の優先度は高いか。
公平性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者に情報は流れているか。 ・受益者負担はあるか(実費・教材費)
有効性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・期待通りの成果が得られているか。 ・さらに成果を高めるためにやり方の見直しは必要か。 ・市民の満足度は高いか。
効率性	B	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性はどうか。 ・事業運営に学習者が参画しているか。 ・他事業との統合は考えられるか。
総合評価	A	<p>A：適切で成果が得られている。 B：課題あり、成果はある程度ある。</p> <p>C：課題あり、成果があまりない。 D：成果が得られていない。</p>
特記	<p>現在公民館の利用制限がある中では難しいが、今後参加者が能動的に学習するプログラム（避難所ゲーム）や魅力ある活動内容（非常食調理など）の提供が課題である。</p>	

《凡例》 良い ← A B C D → 良くない	《判定例》 <table style="display: inline-table; border: none;"> <tr> <td>A } [A]</td> <td>A } [A]</td> <td>A } [B]</td> <td>A } [A]</td> <td>A } [A or B]</td> </tr> <tr> <td>A } [A]</td> <td>B } [A]</td> <td>B } [B]</td> <td>A } [A]</td> <td>B } [B]</td> </tr> <tr> <td>A }</td> <td>A }</td> <td>B }</td> <td>A }</td> <td>B }</td> </tr> </table>	A } [A]	A } [A]	A } [B]	A } [A]	A } [A or B]	A } [A]	B } [A]	B } [B]	A } [A]	B } [B]	A }	A }	B }	A }	B }
A } [A]	A } [A]	A } [B]	A } [A]	A } [A or B]												
A } [A]	B } [A]	B } [B]	A } [A]	B } [B]												
A }	A }	B }	A }	B }												

次年度展望	①：事業拡大 ②：現状規模で継続 ③：事業縮小 ④：目的達成により終了 ⑤：統合・改善・その他
-------	---

☆公民館運営審議委員付帯意見

(A：適切で成果あり B：成果はあるが、改善の余地あり C：要改善)

委員①		(特になし)
総合評価	A	
委員②		学校に依存するのではなく、地域で防災について学ぶことは有意義であると考えます。子どもの時から防災について学習することで、地域全体で自助・共助の精神が養われると思います。小学生が参加者の主体であれば、保護者も一緒に参加できると家庭内での話し合いや具体的な対策にもつながるのではないのでしょうか。
総合評価	A	
委員③		防災スキルは、近い将来起こりうる大災害から身を守るために必須な自助、共助の根幹です。学校単位で災害体験車を呼んで行くことも可能でしょうが、避難所となる地域の防災倉庫を見学するなど、より広範囲の避難民を想定した実践的内容で、たいへんによいと思いました。従来は、泊りがけで行っていたようで、避難所で共に過ごす体験もできて、それもよい経験だったのでは。次年度展望 ②
総合評価	A	
委員④		自然災害で佐倉市内でも被害を経験し、「自分の命を守る」行動につながる事が学べたのでは。コロナが落ち着けば、地域の方の協力も得られると思います。
総合評価	A	
委員⑤		規模を縮小してでの開催ではあったが、コロナ禍であっても災害・防災対策を忘れない・させないという意図は体験を通じて伝わったと思う。次回にも期待する。
総合評価	A	
委員⑥		近年災害が多い中、災害時に役立つスキルを学ぶことは、子供たちにとって防災意識の向上と共にたくましく生き抜く力になったと思います。感染予防対策で密集・接触を避け、事業を実施できたことは大きな成果だと思います。
総合評価	A	
委員⑦		コロナ禍の特別メニューとはいえ、バラエティーに富んだ内容です。過去に震災を経験した方々が口にするものの一つに役に立ったのは繰り返しの訓練だったといいます。命を守るための避難路を確認し、みんなで共有することだと。13人の参加者はそれなりに成果を得たと思いますが、人数的に少しもったいなかった気がします。少人数であれば自分のためだけでなく、いざという時のリーダーを養成するような視点があってもと思います。
総合評価	A	
委員⑧		未曾有の災害に役立つスキルを学ぶ対象者に小・中学生を災害対策の知識を習得させる良い機会だと思います。少しでも多くの子供たちにスキルアップが図られるよう今後も事業の継続を望みます。
総合評価	A	

委員⑨		起震車体験、根郷小の防災倉庫見学、そして防災啓発ビデオ鑑賞により、知識と体験を組み合わせた防災への備えは大切だと思います。
総合評価	A	

委員⑩		事業に参加し、子供たちと一緒に地震体験や根郷小学校の防災倉庫を見学した。防災倉庫には、震災時に利用する日用品や機材など多数が備蓄されており、参加者は震災時の活用方法に熱心に耳を傾けていた。防災デイキャンプは、防災の在り方を学ぶ貴重な体験の場であるとともに、コロナ禍でなければ1泊2日のキャンプで、子供たちの自主性や協調性を高められる有意義な事業と見受けられます。青少年教育の一環としてこの事業は継続して下さい。
総合評価	A	

委員⑪		新型コロナ禍での運営の工夫は大切な事だったと思います。災害への予防行動、活動はややもすれば失いがちな事。できれば、子供のみならずの集いからもうすこし幅を広げ、若い人、学生達をまじえた方法に拡大して行う必要を感じるとても良い運営かと感じました。
総合評価	A	

委員⑫		危機管理課で進める災害に対する啓蒙活動を地域の公民館で行うことは非常に意義のあることだと思います。高い確率で起こるとされる大震災に対する意識が薄れていく中、定期的に地域住民に啓蒙することのような事業はぜひ今後も続けていただきたいと思います。今後、対象を親子にする、内容に遊びの要素を入れるため地域のどこに避難所があるのか、スマホが使えない場合公衆電話はどこにあるか等を自分の住む地域の地図に落とししていく「減災マップシュミレーション」等を入れることも検討されたいかがでしょうか。
総合評価	A	

委員⑬		コロナ禍においての防災キャンプは例年と違い大変だと思います。その中で小学生や中学生の皆さんが受動的ではなく能動的にできるよう、考え方や行動のリレー体験などの工夫はどうなのかと感じました。
総合評価	A	

委員⑭		コロナ禍の中では、実施に向けて予定変更も多く大変だったと思います。小学生は東日本大震災を体験していませんから、防災意識を持つためにも有意義なプログラムだと思います。参加者が少なかったのは残念ですが、今回の体験から子供たちが学んだことは大きかったと感じます。
総合評価	A	

委員⑮		<ul style="list-style-type: none"> ・防災に関して地域で共有したいことが、小中学生対象にデイキャンプとして行われたことは、とても大きな意義があると思います。その中心に公民館があることも、理解されたと思います。いざいとう時に、どう生き抜くかということを、児童生徒が意識する教育は、学校が行うのとは違った地域連携意識が育つと思います。 ・学校が、災害の折に地域の避難場所としての役割があることを、学校の外で学習することの意義も大きく、児童生徒が在学中だけでなく卒業後も意識していくことが期待されます。 ・さらに、児童生徒が地域の生活環境に災害防止の視点で目を向ける機会にもなったことでしょうか。それはコロナ禍という災害にも地域全体で向き合うことの大切さを知ることにつながったことでしょうか。
総合評価	A	